

<はじめに>

福岡市・福津市・古賀市・田川市・北九州市の協力で、乳幼児メディア接触状況調査を実施した。主要な結果を前回(2015)の比較も含めて報告する。

乳幼児健診時(4か月、1歳半、3歳)にアンケートによる調査、有効回答総数=4627

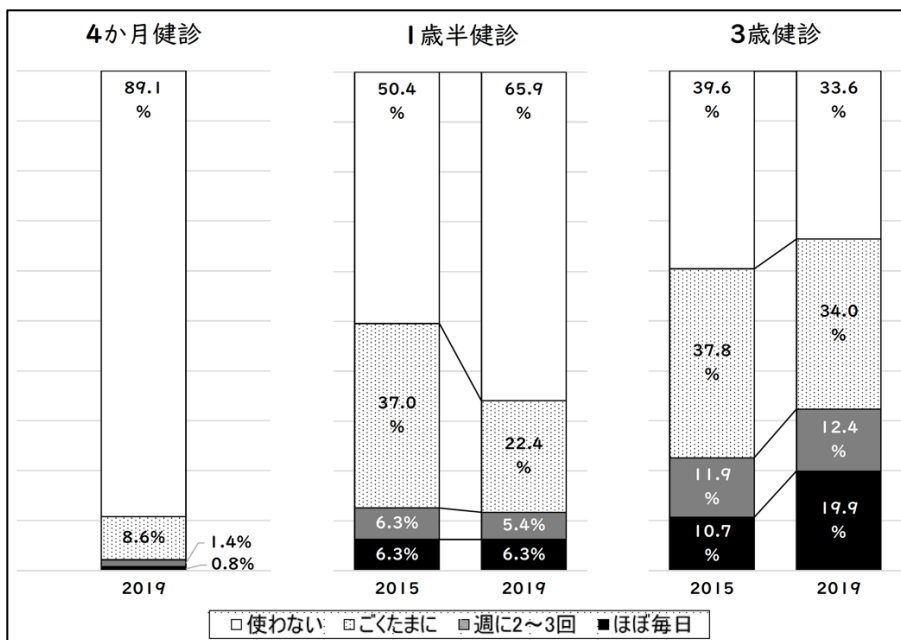
(表1に地域別健診別有効回答数を示す)

表1. 地域別・健診別有効回答数

地域	(調査期間)	4か月健診	1歳半健診	3歳健診
福岡市	(9月)	1042	1006	948
福津市	(10・11月)	129	141	142
北九州市	(9～12月)	549	574	579
古賀市	(10・11月)	61	83	75
田川市	(10・11月)	64	117	117
合計		1845	1921	1861

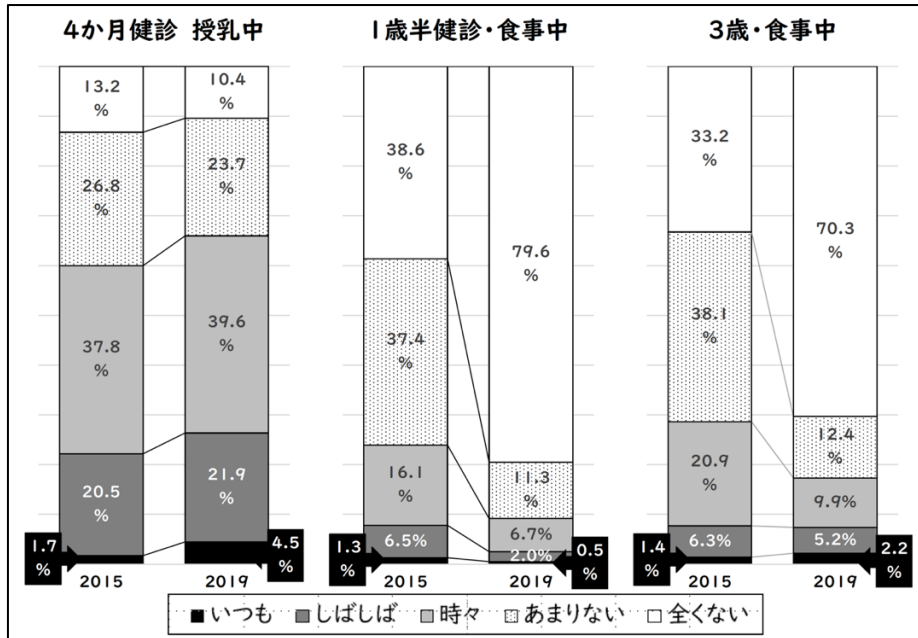
<結果>

1. 子どものスマホ・タブレットの接触・使用状況(図1)



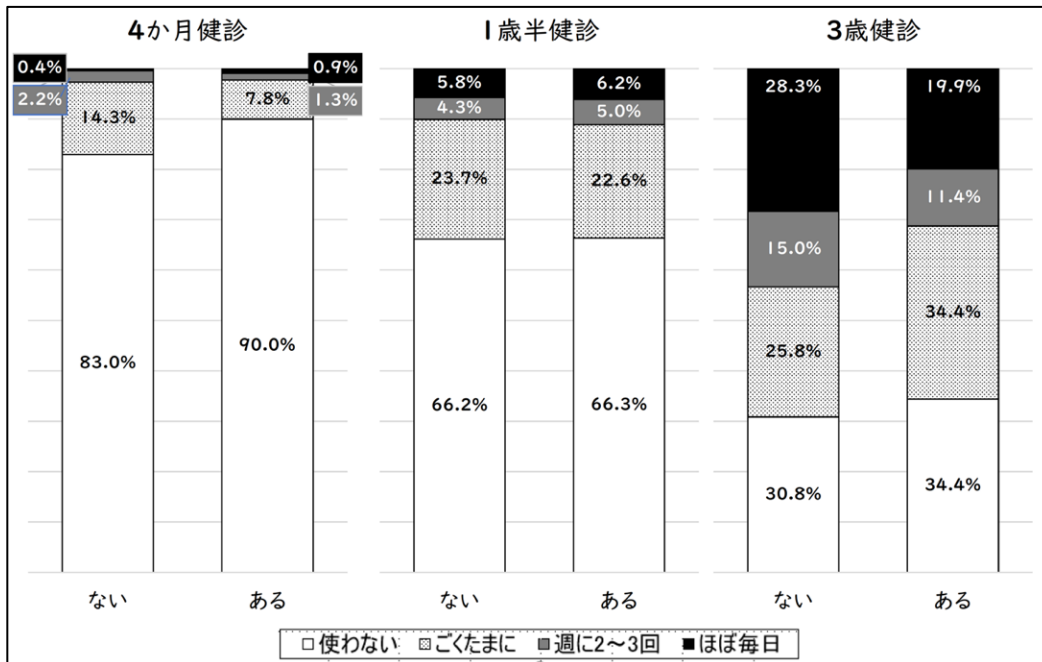
1歳半でのスマホ・タブレットの使用状況は前回より少なくなり、3歳での使用は前回より多くなっていました。3歳児では“ほぼ毎日”が19.9%、“週に2~3回”が12.4%であった。保護者のスマホ・タブレットの日常的な使用が進む背景で3歳児の使用が増加し、「2歳までは使用を控える」という小児科医会等の提言や乳幼児健診での啓発が、1歳半の使用状況を少なくしたと推察される。(4か月の接触状況は設問の仕方が前回と異なったので今回の結果のみ)

2. 授乳中・食事中のスマホ・タブレットの接触・使用状況(図2)



4か月健診では接触が前回より増えていた。授乳中の母の使用状況を示しており、保護者の日常的な使用が進んでいることが反映されていると考えられる。1歳半、3歳の食事中の使用は明らかに減っていた。「食事中は使用を控える」という提言や啓発が功を奏していると推察される。

3. 啓発・情報の有無とスマホ・タブレットの接触・使用状況(図3)



テレビ、スマホ・タブレットのマイナスの情報を聞いたことの有無と使用状況の関連である。1歳半では「2歳までは使用を控える」というメッセージが広く効果があるため差がでていないと推察される。3歳では、情報を聞いたことがあると明らかに接触・使用状況は少なくなっている。早期からきちんと啓発することの効果を示していると考えられる。

4. 電子メディアの影響についての啓発の場所・情報源 (図4)

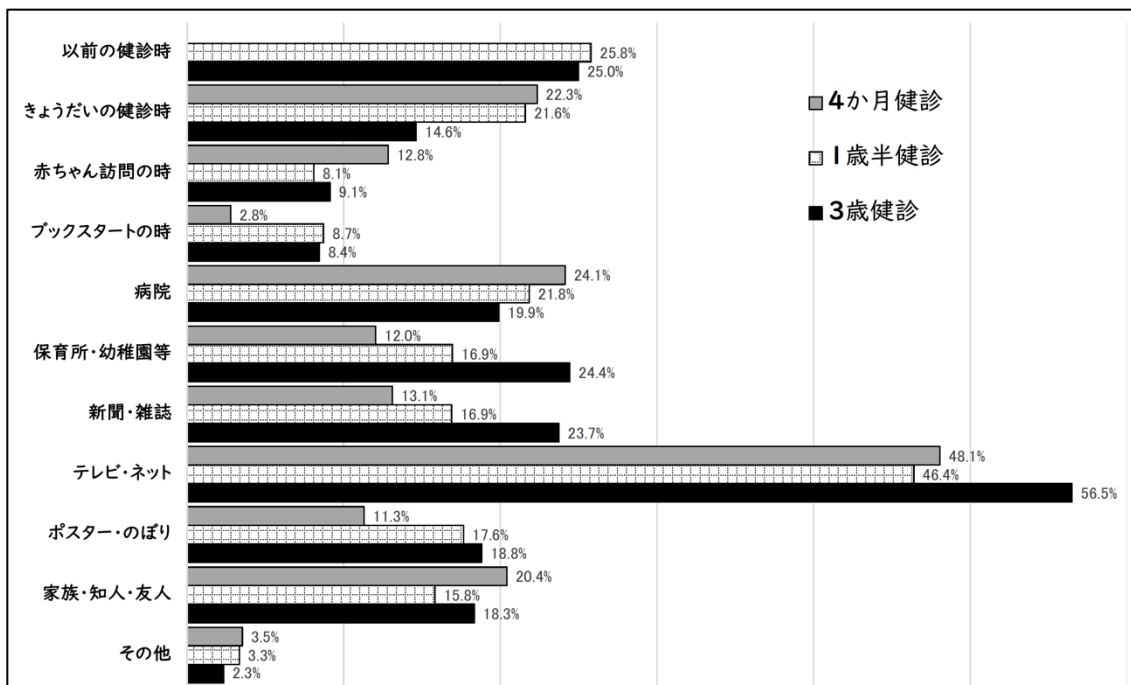
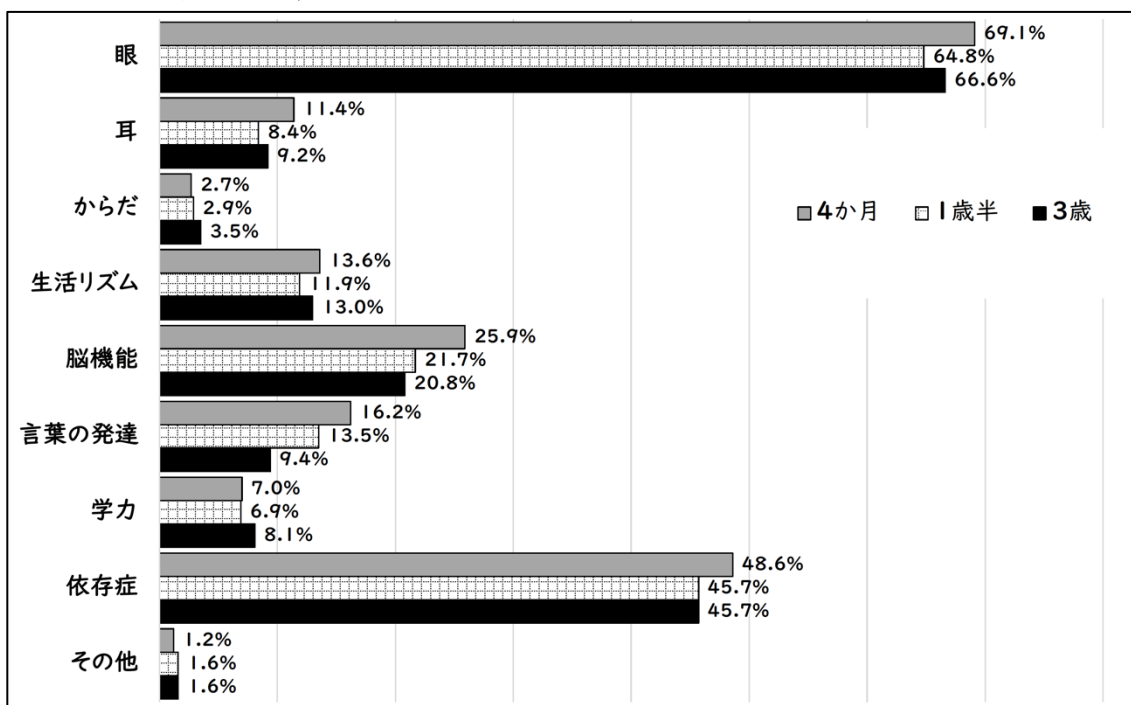


図4 テレビ、スマホ・タブレット等のマイナスの影響はどこで聞きましたか (年齢別)

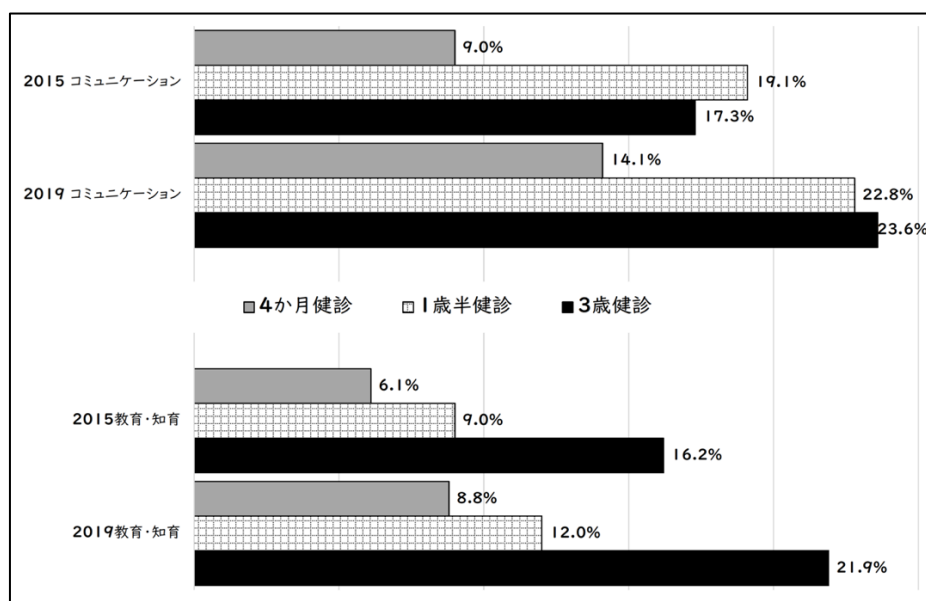
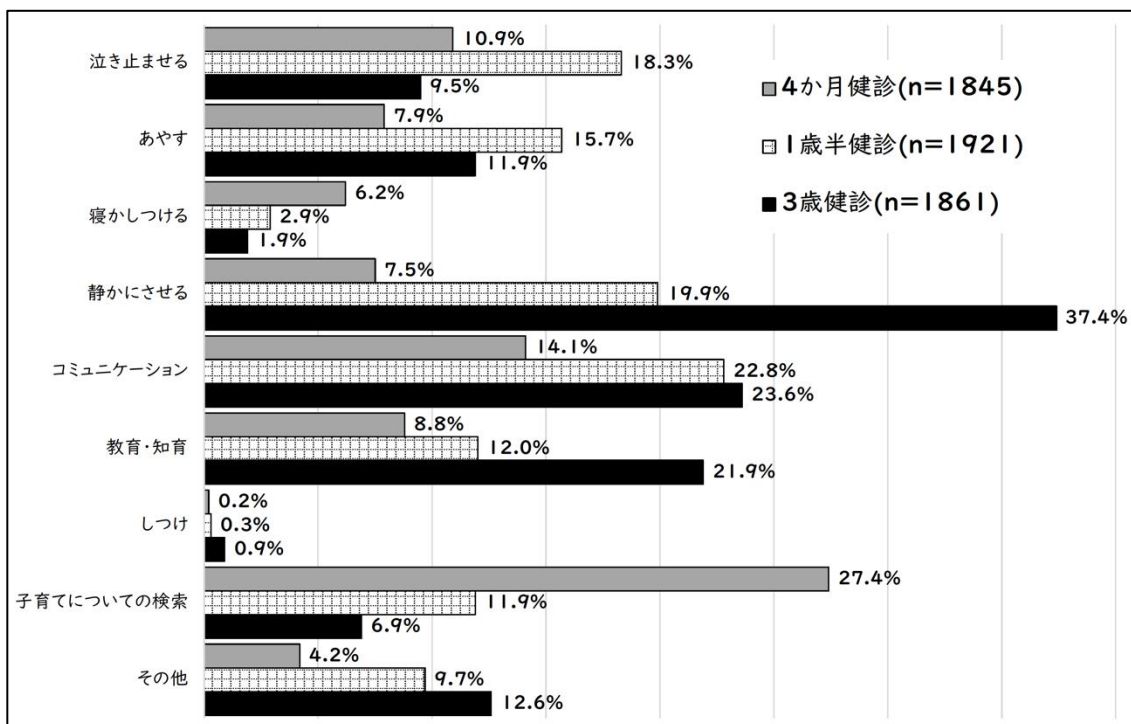
全ての年齢でテレビ・ネットという広域な情報源が最も多い。4か月健診では健診時や病院が多く、集団生活に入る3歳健診では保育園・幼稚園が多くなっている。

5. 電子メディアの影響で心配な事 (図5)



全ての月齢で眼への影響が最も多い心配事で、次ぎに依存症、脳機能、生活リズムと続く結果であった。脳機能や言葉の発達は若い年齢ほど心配の割合が多かった。

6. 子育ての中でスマホ・タブレットを使う目的 (図6, 7)



スマホ・タブレットの使用目的(複数回答)が、年齢によって異なり変化している。4か月の頃は子育ての情報検索が主で、その後泣き止ませる・静かにさせる・コミュニケーションが増え、3歳では静かにさせるが主になり教育・知育も増えるというパターンで、前回と同様である。子育ての中での課題・ニーズを反映しているものと考えられる。前回と比較すると、コミュニケーションと教育・知育の割合が増えていた。これは、遠方の親戚(祖父母など)とビデオ電話を使用することが増えてきたこと、早期からの教育効果の願望が高まったことによると推察される。

7. 電子メディアの依存傾向（図8，9）

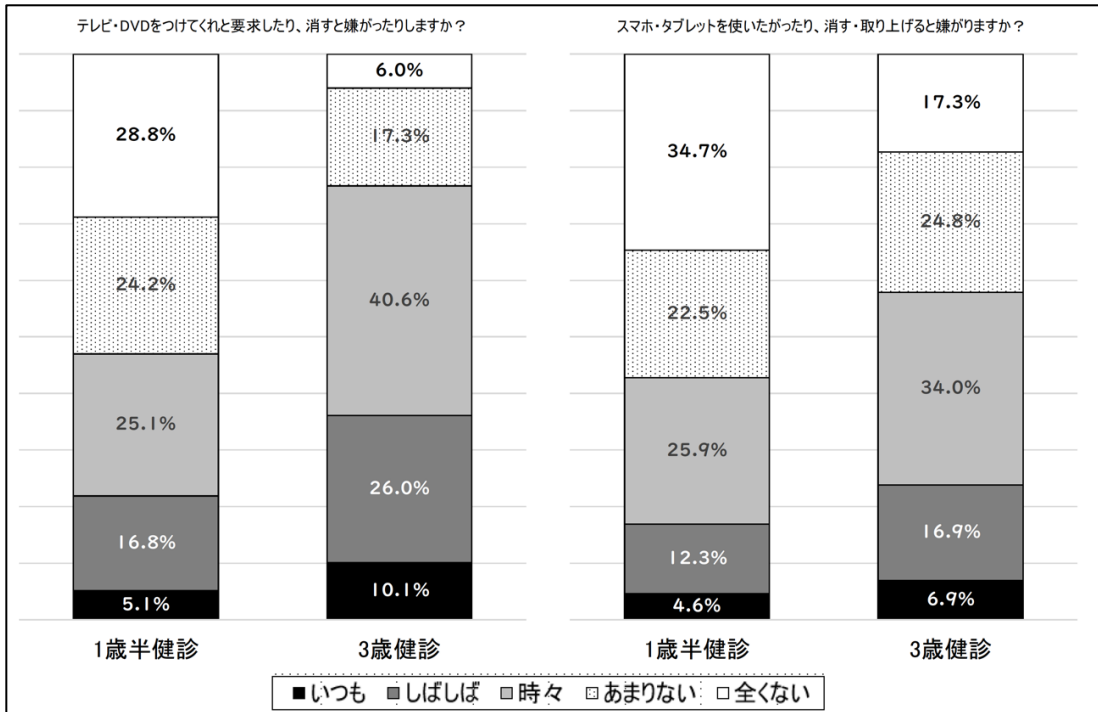


図8 メディア依存傾向（1歳半健診、3歳健診）

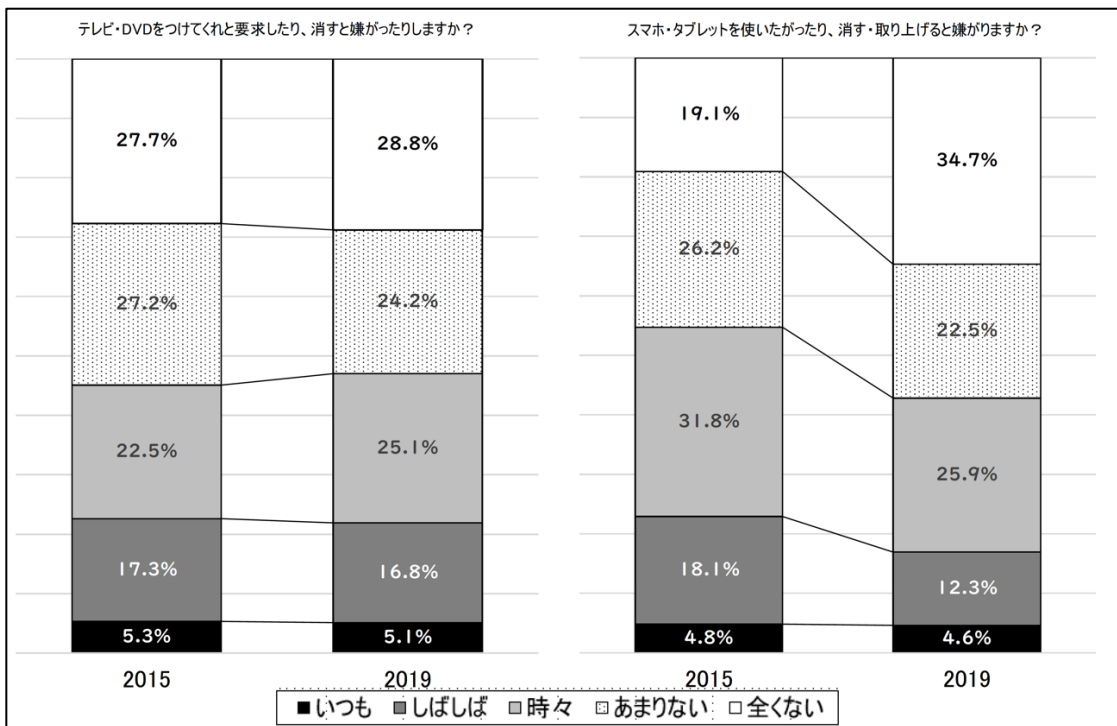
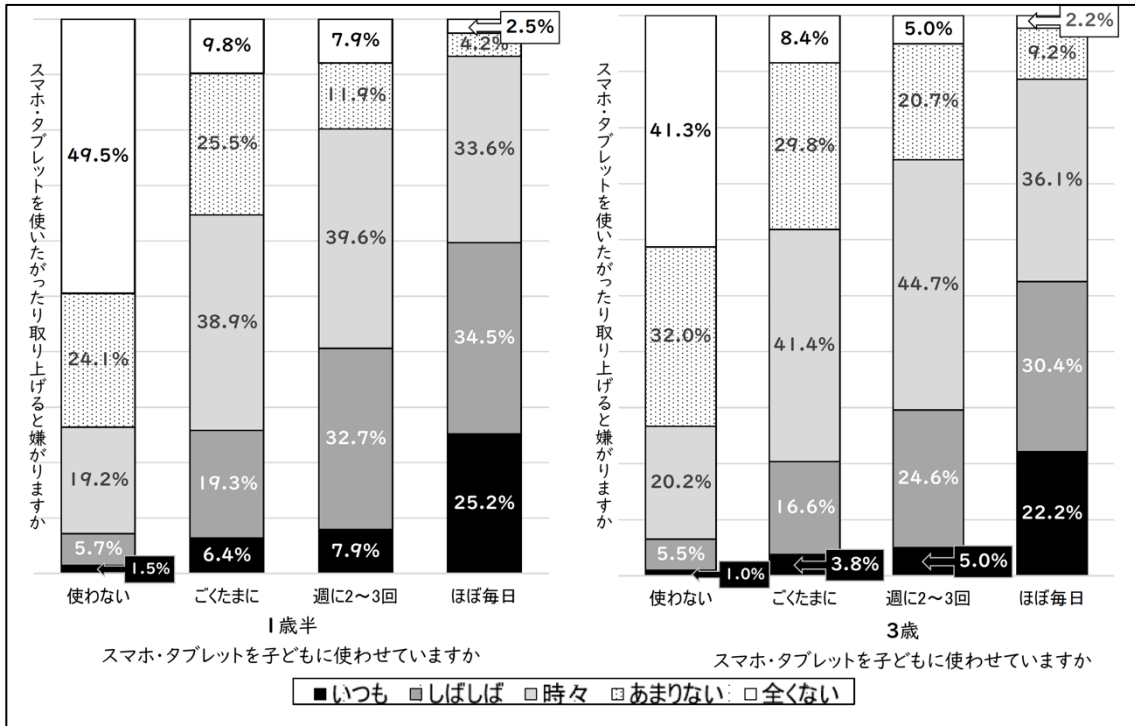


図9 メディア依存傾向（1歳半健診）の経年変化

1歳半から3歳へ依存傾向が強まることがわかる（図8）。
1歳半でのスマホ・タブレットの依存傾向は減っており、上述したように医会の提言など一般的な啓発の効果と思われる（図9）。

8. スマホ・タブレット使用頻度と依存傾向の関係 (図10)



これまでと同様、依存傾向は使用頻度と正の相関が認められた。(p<0.001)。

<まとめ>

1. スマホ・タブレット使用状況：3歳は増加・1歳半は減少。

3歳では、前回(2105)より使用状況が多くなっていた。また4か月での授乳中の接触状況(母親の使用状況)も多くなっていた。社会全体そして保護者のスマホ・タブレットの日常的な使用が進んだことが背景にあると思われる。そのような中で、1歳半でのスマホ・タブレットの使用は減少していた。これは「2歳までは使用を控える」という小児科医会等の提言(マスメディアで話題)、病院や乳幼児健診での啓発の効果だと推察される。

2. 授乳中・食事時のスマホ・タブレット接触・使用状況：4か月は増加、1歳半・3歳は減少。

残念ながら、4か月でのスマホ・タブレット接触状況(母親の使用状況を反映)は前回より増えていた。1歳半、3歳ではスマホ・タブレット使用状況が明らかに減少した。これも啓発の効果だと推察される。

3. 電子メディアの影響についての情報提供・啓発活動の効果

テレビ、スマホ・タブレットのマイナスの情報を聞いたことが有ること（啓発）で、3歳でのスマホ・タブレットの使用状況が明らかに少ない結果であった。これは啓発の効果を示していると考えられ、早期からのきちんと啓発することの意義を示している。

<付記>自治体比較：(図11～14)

自治体による差がみられる結果を以下にいくつか示した。接触状況の差、啓発の場所・機会の差があり自治体の特徴が示されていて興味深い。各自治体で検討して頂きたい。

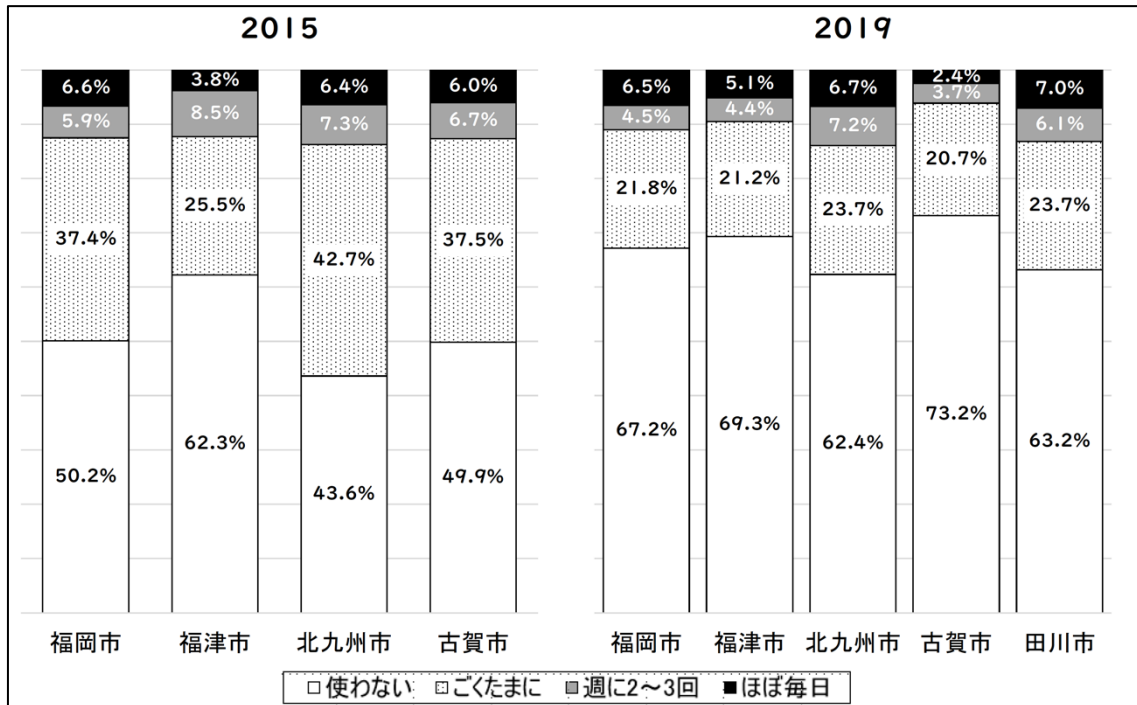


図11 スマホ・タブレットの接触状況（1歳6か月健診）

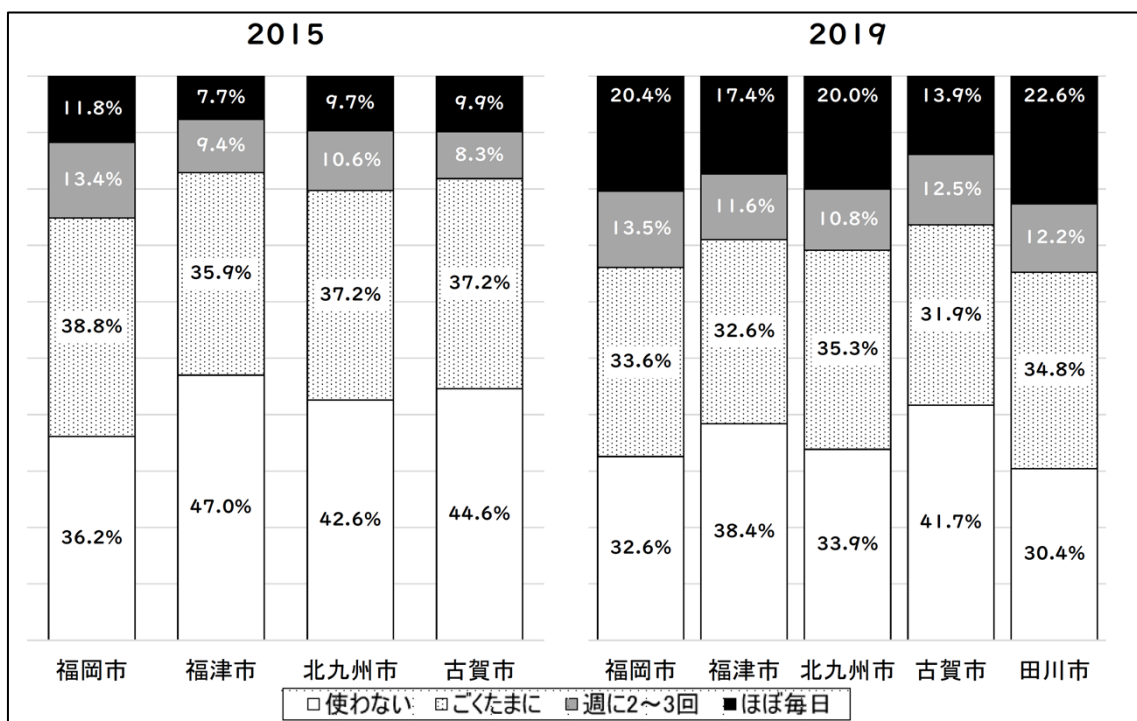


図12 スマホ・タブレットの接触状況（3歳健診）

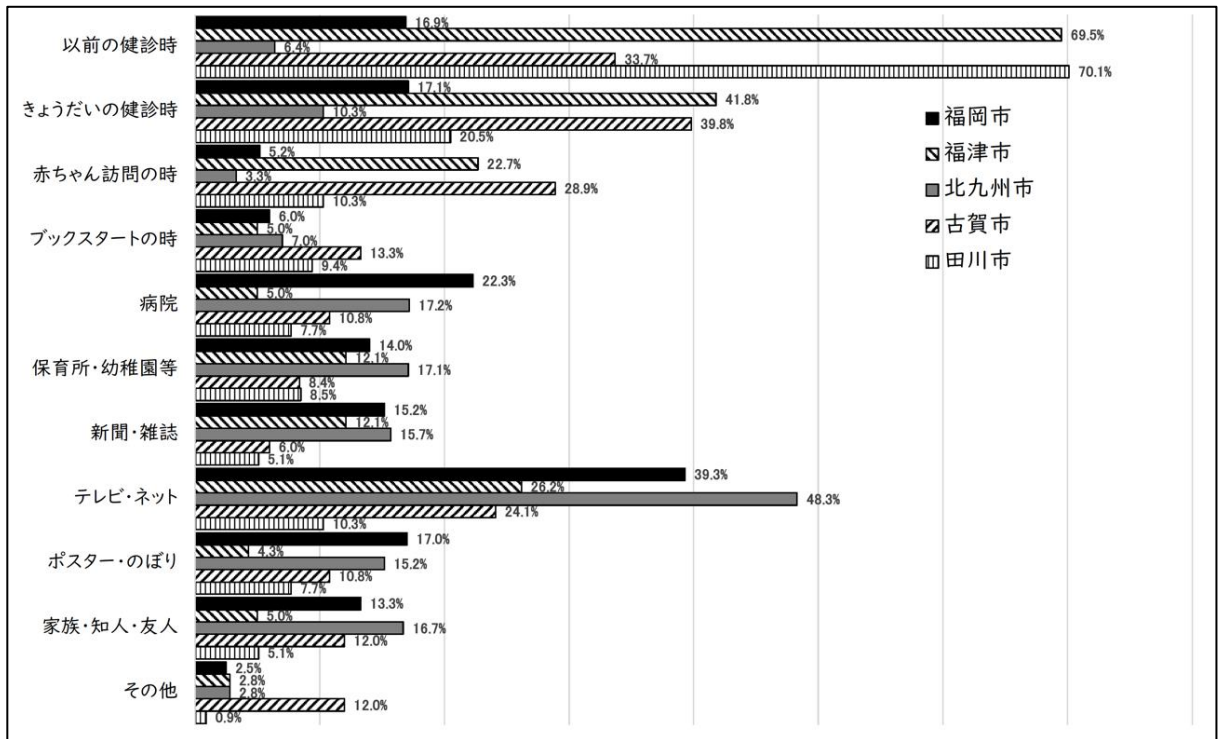


図 13 テレビ、スマホ・タブレット等のマイナスの影響はどこで聞きましたか (1歳半健診)

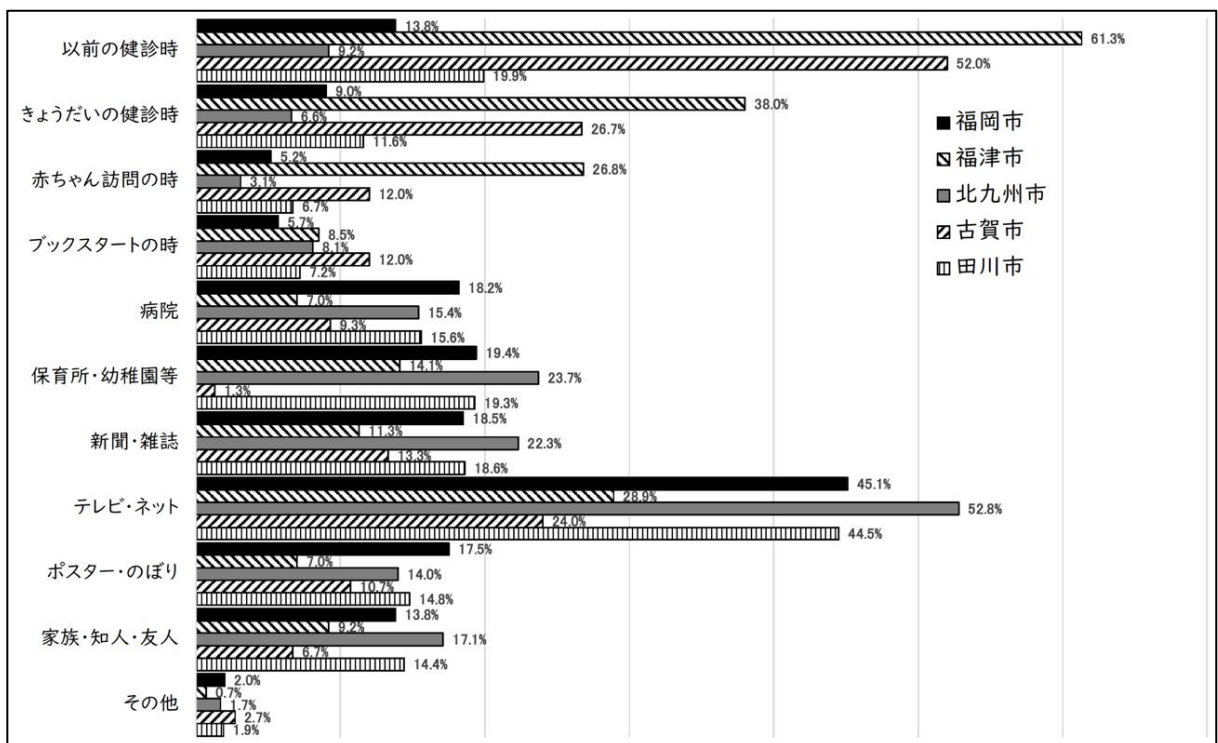


図 14 テレビ、スマホ・タブレット等のマイナスの影響はどこで聞きましたか (3歳健診)